○大阪地方と寺院　木村武夫著
○古代の大阪　天坊幸彦著
○大阪陣の起因　三浦三郎著
○大阪の町人史　佐々木茂八著

――大阪鄉土史叢書――

魚澄惣五郎氏を中心に、大阪に居住する新進の歴史家達の協力に依つて、大阪鄉土史叢書十二册の刊行が開始されたのは昨年の早くに屬するが、その後上記四册が引續き上梓された事を深く喜びとするのである。

今各册に就いて極めて概略の紹介をするならば、木村氏の「大阪地方と寺院」は佛教傳來當時に筆を起して織田信長の時代に及び近く公刊せらるべき本叢書第九册の小川勝氏「石山本願寺史」に接續してゐる。天坊氏の「古代の大阪」は地理、聚落、先史時代、傳説時代、有史時代、皇宮、神社、寺院などの項目を掲げて、西は尼崎、南は住吉邊まで包括し、時代的には凡そ奈良朝時代までを叙述の中心とされてゐる。三浦氏の「大阪陣の起因」は豐太閤の薨去に始まつて、豐臣德川兩家の勢力隆替の委曲を盡し、遂に大佛鐘銘事件を直接の動機として片桐且元の大阪城を退去する事に迄至つてゐる。佐々木氏の「大阪の町人生活」は大阪の都市としての發達、大阪町人の經濟的活動、大阪町人の文化的活動の三編より成つてゐるが、主論は第二編に在るものと思はれる。而も單に所謂經濟史的にではなく「大阪なる土地の上に於いて營まれた社會生活の中に發展しつゝ流れ來つた精神を把握しよう」といふ態度を以て臨まれてゐる。

大阪の經濟都市としての發展目覺ましく、その鄉土愛の感情と結付いて大阪自身の文化を所有せんとする欲求に基いてゐると言ふのが、この叢書刊行の趣旨である。而も十二の專門的事項に就いて平明な叙述を以て物されるこの事業がやがて完成された曉は、大阪並にその内に浸潤してゐる歴史は、大阪人一般の「精神」となるであらう。大阪人の居住する大阪といふ土地の温かさと文化の恩惠とが、親近の情を以て大阪人に迫つて來るであらう。「都會人は鄉土を持たず」といふ諺がある。併しこの鄉土史叢書は大阪と大阪人との間に精神的紐帶の恢復を與へる意義を持つてゐる。更にその事は大阪人をして大阪の新文化醸成の氣運に貢獻せしめるであらう。（大阪湯川弘文堂發行、四六判、定價各册六十錢）

○幾仁親王日記　卷上、附錄　高松宮家

高松宮家では宣仁親王殿下の台旨を奉じて有栖川宮歴世行實の編修に從事され、既に刊行されしもの數種を數へてゐる。今また本年一月二十四日幾仁親王五十年祭を機として、親王追憶の記念にその御日記の刊行に着手され、こゝに卷上及び附錄の上梓を見るに至つた。

親王御自筆の御日記は途中多少の脱落はあるが、明治四年三月から同十七年四月に及んでゐる、その中今回刊行された卷上は四

年三月から十二年六月に至る分を收錄してゐる。附錄は一品宮御隱邸雜記で、明治十四年二月二十三日より十七年十一月二十九日に及んでゐる。宛も明治十四年二月二十三日には職仁親王神道教導職總裁に任ぜられ給ひ、それより幾多の曲折を經て十七年八月十一日教導職の廢止を見るに至つた。その間の經緯はこの一品宮御隱邸雜記に詳細を極め、明治初年の思想史神道史關係の事項を徵するに絕好の資料である。（高松宮家藏版、非賣品、共に菊判上卷五二八頁附錄五五〇頁）

○京都帝國大學國史研究室藏史料集

昭和八年三月京都帝大國史研究室では、その藏する尨大な文書、記錄、資料等の內、精華五十五點を撰んで寫眞版となし、これに懇切なる解說を附して公刊し、斯界を益する事大であつたが、刊行以來二年半を經過して既に殘部なく、再版を要望する聲が高くなつた。こゝに昨年十一月京大文學部創立三十周年の祝典が盛大に擧行せられたのを機とし、內容は同一であるが、解說など多少の誤植を訂正し、寫眞版と解說とを共に一册に合綴し、淸楚な裝釘に附し普及版として刊行された。（京都星野書店、九圓）

〔以上時野谷〕

○蒲壽庚の事蹟

桑原隲藏著

宋元鼎革の際、提擧市舶卽ち海外貿易の長官に任じたアラビヤ出身の蒲壽庚の事蹟を中心として、支那中世に於ける海上東西交通の諸問題、その他の幾多のことを究明した本書の眞價に就いては、今更述べるまでもなく、帝國學士院賞が贈られたこと、英譯漢譯書等が行はれて居ることによつて知ることが出來る。今度新たに出版されたのは、さきに上海東亞攷究會によつて刊行されたものゝ增補改訂本である。博士は生前常に本書の增補訂正のことを念頭に置かれたのであつたが、遺憾にもその宿望を果されず逝去された。そこで、その遺稿を整理して出版したのが本書である。

博士は改訂本出版に際しては、餘程の加筆をなさんと考へられたるものゝごとく、最初の數頁は可成り文章を改め、加之別に草稿をも作られてあつた。然しこれは僅かの部分に止まり、他は後日この草稿を作成せんとの用意として處々に――主として欄外に――覺書を記し、又誤植を正して置かれた。

本書出版に際しては、先づ本文中に挿入し得るものはこれを挿入し、然らざるものはその出典を檢索して、これを明示し、又必要なる範圍內で若干說明的字句を加へ、「增補」として「參照」の部の後に置いた。猶「增補」の部には稿本にはなく東洋文庫刊行の英譯本に見ゆる數項のものゝ和譯をも合せ、而してその區別を明かにするために、後者の場合は＊印を附した。卷末の索引は語彙の排列が若干改まり、又新たに數を增した。又、本書には羽田博士が「本書發刊について」と題して序文を寄せられて居る。これによつて、增訂本出版の經緯や、著書の內容や價値を最も簡明に知ることが出來る。要するに、これを舊版に比較すると面目が一新して居る。